

2050年「CO₂ゼロ」へ向けての第1弾 **JERA**の世界初・アンモニア混焼発電

財界

Z A I K A I
a Japanese business biweekly

ジョブ型時代到来に
備えた仕組みづくり
パーソルHD・和田孝雄の
新人材サービス戦略

夏季特大号
2021 7/7

◎インタビュー
デジタル改革担当大臣
平井 卓也
元防衛大臣
森本 敏
東京証券取引所社長
山道 裕己

なぜ、日本は非常時対応が鈍いのか？
今は、産業や
社会の転換点
三菱総研理事長・**小宮山宏**の
「有事への対応は『自律・分散・協調』体制で」

本誌主筆 村田博文



表紙の人
マルハニチロ社長
池見 賢
撮影 齊田 勲



いけだ・よしお

大阪医科大学卒業。1996年大阪医科大学附属病院形成外科入局。同大学附属病院形成外科棟医長、東海大学病院形成外科・美容外科臨床助手を経て、2000年大阪いけだクリニック開院。04年銀座いけだクリニック開院。現在は東京皮膚科・形成外科総院長の他、東海大学病院形成外科非常勤講師、一般社団法人・JAAS日本アンチエイジング外科学会理事長をつとめる。

ウッドセレブに人気の医療機器のみを取りそろえ、高品質の最新医療サービスをご提供しています。施術後もメイクをして、そのままお食事に行くことができるクリニックです。

池田 実は開業医って孤独なんですよね。僕は幸い独立が早かったのですが、まだ良かったですが、同業者の周りが全部敵だらけになってしまうのです。

そうしたことから、一人で開業医するより優秀な医師の方と一緒にや

ったほうがいいと思います、以来本院には良い先生ばかり来ていただき来ました。これからは僕は吉澤先生と一緒に働き続けたいと思ったので、一緒にやりましょうということになりました。

吉澤先生にとっては初めての病院経営ですが、いかがですか。

吉澤 はい、円滑な病院運営する為、今はスタッフの方々の関係を重視しています。スタッフの方々に気持ちよく働いてもらいたいですし、また常に緊張感を持つことなどをモ

何回も骨折した子供の時に、治療して頂いた医師を見て、外科医になろうと思ったのが私の原点です。

NEW FACE AESTHETIC CLINIC
院長

東京皮膚科・形成外科 総院長

池田 欣生 × 吉澤 秀和



よしざわ・ひでかず

2006年順天堂大学卒業、同年より附属病院で初期研修後に、同大学の救急災害医学講座で3次救急医療を経験した後に2009年より形成外科に入局する。2014年に形成外科専門医を取得、2016年から東京皮膚科・形成外科に非常勤として加わる。関連病院の部長職や附属病院の医局長を経て2019年より池田総院長のエイジングケアや美に対する姿勢や手術に感銘を受け非常勤として加わる。

今年開業して21周年迎えた東京皮膚科・形成外科、池田欣生総院長は、新たな事業展開として上海の「NEW FACE CLINIC」と提携。麻布十番に美容外科・美容外科・形成外科「NEW FACE AESTHETIC CLINIC」を開業させ、医療スタッフの吉澤秀和医師に院長を託した。体力、気力充実し満ちた41歳新進気鋭の吉澤院長は、「ニューフェイスエステティッククリニックをどう展開していくか、池田総院長との対談で意欲を語る。

「NEW FACE AESTHETIC CLINIC」が目指す美容外科とは

ツイッターにしています。

正直初めてのことなので試行錯誤しているところです。今までは一応、大病院などで管理職として医療関係者には指導はしてきましか、管理職と経営者はまた違うものなので、来院された患者さんに如何に喜んでもらえて、スタッフも楽しく働き、そして実績を伸ばすためには何をしたらいいんだろうということを四六時中考えています。

池田 医療スタッフの陣容は。

吉澤 来てもらっているスタッフはみな、東京皮膚科・形成外科のたちです。人員は医師が1人、受付が2人、看護師が2人もしくは3人、ただ看護師さんがもう1人いると、もっと回転ができると思いますが、スペースがそれほど広くないので、こじんまりしている分、もう少し上手に動線や動きを工夫すれば、もっと患者さんにサービスができることは可能だと思っています。

外科手術で必要なのは、手術後の傷あとを残さないこと

池田 最近、僕が思うのに美容医療全般がちよっとおかしな方向に流れていっていますよね。他の企業の参入が多くなって、売り上げ重視の

池田 今年3月31日、東京・麻布十番にグループ院となる美容外科・美容皮膚科・形成外科のクリニック「NEW FACE AESTHETIC CLINIC」をオープンしました。中国・上海で、良心的な価格で人気の「NEW FACE AESTHETIC CLINIC」の日本初上陸です。先方から共同でやりませんがと声をかけられたので、東京皮膚科・形成外科で私が直接指導し、高い医療技術を習得している吉澤秀和さんに院長を託しました。

吉澤 「NEW FACE AESTHETIC CLINIC」は、ハリ

風潮になっています。僕らは医者です。だから、医者が診断して治療をするという基本を抑えていますけど、売り上げ重視だと、診断という過程が省かれたコスト減になっているクリニックになってしまっています。

そうしたクリニックが増えていることに危険を感じているので、僕はちゃんとした患者重視のクリニックを広げたいと思っています。

必要のない医療をやられると、患者さんが不幸になりますから。ところで吉澤先生は順天堂大学の出身ですね。

吉澤 はい、順天堂大学の救急災害医学講座で3次救急医療を経験した後、2009年に形成外科に入局しました。基本的に美容外科の技術というのは、形成外科にとって絶対必要な技術だと思います。

特に手術後に残る傷あとなど見た目のところまで気を使う医師は、大学にはまだ少ないですね。大学の先生は美容外科なんて思っている人が多いですけど、いかに良い手術をしたとしても、手術後に患者さんが最初に見るのは傷あとなのです。そこがきれいでなければいけません。私が大病院時代でグループ長で手術を指導する際には、研修医や

て海外での美容外科の需要は増えて
いますね。

池田 海外においては、今のお休
み中に治療しようという需要は増え
ていますが、自粛ムードの日本はこ
の時期にやると批判されます。

ただ、僕はもともと内面からの体
づくりを提唱しているのです、みんな
が健康にもう少し気を使って、感染
しても重症化しないような体づくり
をしておくほうが大事だなどと思っ
ます。

吉澤 僕も内面の体づくりの大切
さはすごく感じていて、今、週2回、
パーソナルトレーニングをしています
。その目的としては、僕は自分が
手術などを行うために体力をメイ
ンに考えていましたけど、41歳になっ
て、内面からの若さがないと、表面
をいくら綺麗にしてもすぐ崩れてし
まうと実感するようになったのです。
ですから食事も含めて、内面から
気を付けています。食事で取りきれ
ない分はサプリメントで補っていま
す。

池田 そもそも吉澤先生は、医者
になつたきっかけは何ですか。

吉澤 僕の父は医者とは関係ない
サラリーマンなんです。僕は小さい
ときから骨折なんかで病院にかかる



ことが多くて、お医者さんとよく接
していたので、こういうお仕事って
いいなと子供心に思ったのがきっか
けです。活動的な子で、高いところ
から落ちたりして、腕も3、4回は
骨折していました。

池田 外科医を選んだのも、その
せいですね。

吉澤 そうかもしれませんね。で
も、最初は普通の一般外科に行こう
と思っていましたが、研修医のとき、
3ヶ月研修して休みが1日もなかつ
たんですよ。

ちよつとこれはないなと思って(笑
い)。そうしたら形成外科を見た時、
休みもはつきりしていたし、僕は工
作が好きで、手先が器用だったので、
面白そうだなと思って入りました。
入ってみたら結局、形成外科も休み
はなかつたんですけどね。でも、形
成外科に入って本当によかったなと
思っています。

**患者さんが気楽に立ち寄れる
美容外科を目指す**

池田 形成外科ってQOLを良く
するためのものですよ。その中に
美容外科も位置していて、別に病氣
ではないけれども、見た目をもうち
よつと良くしたいという患者さんの

部下の医師に縫わせるときも、「こ
の傷は一生、患者さんが見るのだか
ら、丁寧に縫合しなければならな
い」と指導していました。従来の外
科だと、内部の手術はメインの先生
が行い、表面を縫うのは部下の先生
が行うと分業されていますが、形成
外科では最後まで主治医が縫うこと
が多いです。

池田 吉澤先生と知り合ったのは、
東海大学出身で順天堂にいられた先
生の紹介で東京皮膚科・形成外科で
働き始めたのがきっかけですね。

吉澤 2014年に形成外科専門
医を取得し、僕もちょうど美容外科
を学びに行きたいというタイミング
だったので、2016年から週1回、
東京皮膚科・形成外科で非常勤とし
てお世話になりました。

池田 先生のエイジングケアや美に
対する姿勢に感銘を受け、関連病院
の部長職や附属病院の医局長を経て、
2019年に完全にこちらにシフト
しました。

**コロナ禍対応で病院が逼迫している中、
本院は外科手術を対応**

池田 コロナ禍の中の美容外科業
界は、今また少し変わりつつありま
す。本院は形成外科の認定医の集団

望みをかなえています。僕の目標は、
老化を予防したいだけです。だって、
人生はもう100年時代、120年
時代とか言われだしてきているん
ですから。100年時代になったとき
に、若い顔のままですつといたい
という需要はこれからも増え続ける
と思うので、一生懸命頑張りたい
です。吉澤先生は形成外科医になつて良
かったなと感じるのはどんなとき
ですか。

吉澤 やはり患者さんからありが
たうと言ってもらえるとやっぱり一
番嬉しいですね。

池田 改めてNEW FACE A
ESTHETIC CLINICの
院長としての抱負をお願いします。

吉澤 池田先生とクリニックを始
めさせていただいて、池田先生から
教わった技術に加え、またこれから
新しい技術や施術もどんどん増えて
くると思うので、これらをいろんな
方に体験してもらいたいです。

できれば分院も近いうちに出せる
ようにしたいです。適正価格で受け
られる、みんなに受け入れてもらえ
る美容医療で、気楽に立ち寄りやす
いクリニックを目指します。

池田 今までの美容外科って、ダ
ウンタイムや痛さがあるのは当たり

なので、今までケガの外傷とか、大
学病院で診きれないものは受け入れ
てきました。だから、コロナ禍で医
療崩壊が起こりそうな状況のもと、
外来手術が必要なケガであれば、受
け入れようと思っています。入院施
設はありませんが、コロナ禍の大病
院は逼迫して、今は包丁で指を切っ
ても患者さんは、何時間も待たされ
ている状態ですからね。

吉澤先生はコロナ禍の現状をどの
ように感じていますか。

吉澤 新型コロナウイルス感染症
に関しては、インバウンドがなくな
り、美容外科の業界全体に痛手が
大きいと思います。

池田 コロナ禍が始まった台湾の
状況を見ていたら、ロックダウンさ
せても、ウイルスが入ってきたらま
た増えてしまうということがわかっ
てきましたから、防御するためにも、
やっぱりある程度ワクチンを今の間
にどんどん普及させるしかないで
しょうね。

ゼロにしたところでまた変異ウイ
ルスが出てくるので、医療の体制を
早く整備して、うまくみんなで団結
してコントロールしないと、仕方が
ないかなとは思っています。

吉澤 コロナ禍では、日本と比べ

前という世界でしたが、今は全く痛
くない、新しい医療機器がたくさん
出てきています。

NEW FACE AESTHET
IC CLINICは施術後に、す
ぐにお化粧して帰れる、最先端医療
のブランドにしようと思ひ、吉澤先
生に託しました。吉澤先生のご活躍
を期待しています。

NEW FACE AESTHETIC CLINIC

東京都港区麻布十番4-1-1 MAXPLAN AZABU10ビル 5F
TEL 03-6722-6795 HP <https://newface.clinic>

東京皮膚科・形成外科銀座院

〒104-0061 東京都中央区銀座2-11-8 ラウンドクロス銀座 3F
TEL 03-3545-8000 HP <http://www.251901.net/>